

株主メモ

事業年度 毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会 毎年5月に開催
期末配当金基準日 毎年2月末日
中間配当金基準日 毎年8月31日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
〒530-0004
同事務取扱場所 (お問い合わせ先) 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話0120-094-777 (通話料無料)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。
○受付電話 (通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)
○インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公 告 掲 載 U R L <http://www.poplar-cvs.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部
証 券 コ ー ド 7601

当社ホームページのご紹介

<http://www.poplar-cvs.co.jp/>

当社に関する様々な情報を
公開しております。



株主の皆様へ

第33期中間報告書

平成19年3月1日から平成19年8月31日まで



お客様に支持されるNo.1コンビニを目指し、競争力の強化、収益力の向上に取り組んでまいります。



代表取締役社長
目黒 俊治

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに当社グループ第33期中間連結会計期間（平成19年3月1日から平成19年8月31日まで）の事業の概況と決算につきまして、ご報告申し上げます。

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の回復に伴った雇用状況の改善や設備投資の拡大が進み、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、前連結会計年度より続いている原油価格の高騰や金利の上昇懸念、また国内における実質増税や年金問題などの影響により、先行き不透明感が継続しております。コンビニエンスストア業界におきましても、オーバーストアによる競合の激化や異業種との競合等が依然として続いており、既存店売上が回復せずに推移

し、本格的な消費回復には至っておりません。

このような情勢のなか、当社グループは「お客様第一」を実現できる競争力のある企業となるべく事業を展開してまいりました。組織体制については、迅速な業務推進ができる制度の見直しや「立地ニーズに合わせた店作り」を推進できる、地域に密着した営業体制が取れる組織構築を進めました。店舗運営体制も利益追求を最優先課題として、コスト意識を高めた現場重視の業務体制の確立を進めました。

このような施策を行い、関東地区では、新しく5店舗の出店、10店舗の閉店を行い、中間連結会計期間末店舗数は、202店舗となり、関西地区では、3店舗の閉店を行い、中間連結会計期間末店舗数は、52店舗となりました。また、北陸地区では、新しく2

店舗の出店を行い、中間連結会計期間末店舗数は、38店舗となり、中四国地区では、新しく8店舗の出店、11店舗の閉店を行い、中間連結会計期間末店舗数は、335店舗となり、九州地区では、新しく4店舗の出店、5店舗の閉店を行い、中間連結会計期間末店舗数は、147店舗となりました。その結果、当中間連結会計期間の新規出店店舗数は19店舗（閉店29店舗、純減10店舗）、当中間連結会計期間末現在の店舗数は、774店舗となりました。

これらの結果、当中間連結会計期間における当社のチェーン全店売上高は53,955百万円（前年同期比6.4%減）、当社グループの連結業績は、営業総収入31,720百万円（同0.1%減）、営業利益484百万円（同47.6%減）、経常利益508百万円（同44.2%減）、また、

中間純利益は、27百万円（同91.5%減）となりました。

このような状況下、当社グループでは、今後10年間に勝ち残るためにチェーンストア本部として競争力の強化を最重要経営課題として取り組んでまいります。商品面では、地域に必要とされる品揃えの探索と開発を推進し、お客様が必要とされる品揃えの強化を進めています。また、組織の充実を図り、経営の効率化を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年11月

高速道路のパーキングエリアに店舗をオープンしました！

ポプラは平成19年9月23日（日）、九州自動車道の玉名パーキングエリア（上り線）に「ハイウェイ彩家玉名PA上り店」をオープンしました。

西日本の高速道路を管理・運営する西日本高速道路株式会社および西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社は「健康・安心・安全の提供」「少子高齢化を考慮した店舗」「ゆとりの演出」「地域特性の演出」「上下線の利用を生かす品揃え」を基本コンセプトにしたハイウェイ・コンビニエンスの展開を進めており、ポプラは「ハイウェイ彩家」でそのコンセプトをかたちにしました。

具体的には店舗出入口を自動ドアにして段差をなくし、店内の通路幅を車椅子のお客様が十分に通行できる、広めの設計にしました。トイレも同様に、車椅子で入室できるスペースを確保しました。また、長距離ドライブの疲れを癒すリラクゼーションスペースを設けて、無料のマッサージ器を設置しました。

店舗デザインは、東屋（寄せ棟造りの休憩用の建物）をイメージした「和風」の外観とし、前面ガラス面を大きく取って、明るく開放感のある店内を演出しました。さらに、店舗前面に敷設したウッドデッキには、テーブルを配置し、くつろぎの空間を提供しました。

商品の品揃えでは、通常のコンビニエンスストア商品に加え、医薬部外品を充実させています。また、上り線を意識したお土産品を品揃えして、ご来店されるお客様のニーズに応えます。

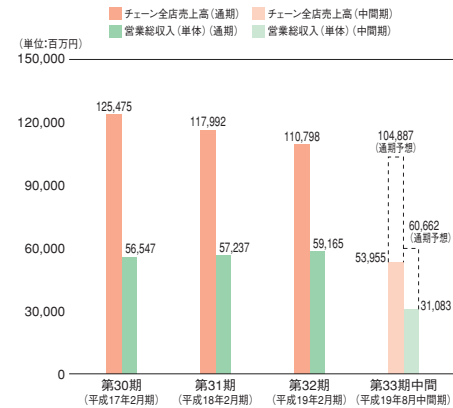


ポプラでは高速道路に限らず、病院内、ホテル内、駅構内といった、特殊な立地への出店にも力を入れています。立地ニーズに応じた店舗設計や品揃えの探索は一筋縄ではいきませんが、お客様から求められるものを見極めて、お客様にとって利用しやすい店作りを追求してまいります。

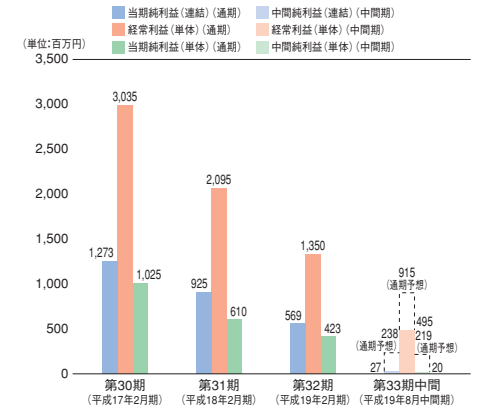
回次	第30期中間	第31期中間	第32期中間	第33期中間	第30期	第31期	第32期
決算年月	平成16年8月期	平成17年8月期	平成18年8月期	平成19年8月期	平成17年2月期	平成18年2月期	平成19年2月期
連結	営業総収入（百万円）	38,307	33,150	31,750	31,720	71,891	64,377
	経常利益（百万円）	1,494	1,199	911	508	2,864	1,976
	中間（当期）純利益（百万円）	427	191	319	27	1,273	925
	1株当たり中間（当期）純利益（円）	47.34	21.20	33.30	2.71	140.61	102.40
単体	チェーン全店売上高（百万円）	65,421	61,852	57,631	53,955	125,475	117,992
	営業総収入（百万円）	29,183	29,126	30,232	31,083	56,547	57,237
	経常利益（百万円）	1,579	1,307	925	495	3,035	2,095
	中間（当期）純利益（百万円）	422	329	334	20	1,025	610
	1株当たり純資産額（円）	1,063.58	1,145.55	1,192.71	1,178.38	1,119.15	1,167.33
	1株当たり中間（当期）純利益（円）	46.78	36.46	34.87	2.08	113.46	67.62
	1株当たり中間（年間）配当額（円）	12.00	12.00	12.00	12.00	24.00	24.00

（注）営業総収入は、売上高と営業収入を合計したものです。

■チェーン全店売上高／営業総収入（単体）



■当期（中間）純利益（連結）／経常利益（単体）／当期（中間）純利益（単体）



中間連結貸借対照表

科 目	当中間期	前事業年度
	平成19年8月31日現在	平成19年2月28日現在
【資産の部】		
流動資産		
現金及び預金	3,846	2,991
受取手形及び売掛金	177	137
加盟店貸勘定	201	353
たな卸資産	1,760	1,290
その他	1,326	2,080
貸倒引当金	△ 16	△ 4
流動資産合計	7,296	6,848
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,205	6,056
器具備品等	1,228	1,159
土地	4,089	4,113
建物仮勘定	64	73
有形固定資産合計	11,587	11,403
無形固定資産	426	351
投資その他の資産		
投資有価証券	460	497
長期貸付金	719	920
敷金・保証金	4,355	4,442
繰延税金資産	840	767
その他	595	553
貸倒引当金	△ 890	△ 893
投資その他の資産合計	6,081	6,287
固定資産合計	18,095	18,042
資産合計	25,392	24,890

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前事業年度
	平成19年8月31日現在	平成19年2月28日現在
【負債の部】		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,285	3,407
加盟店買掛金	2,192	1,952
短期借入金	162	112
未払金	716	852
未払法人税等	97	4
賞与引当金	111	110
預り金	1,520	1,916
その他	813	658
流動負債合計	9,899	9,013
固定負債		
長期借入金	272	328
退職給付引当金	394	380
役員退職慰労引当金	—	3
長期預り金	2,922	3,133
その他	35	48
固定負債合計	3,624	3,894
負債合計	13,524	12,908
【純資産の部】		
株主資本	11,803	11,897
資本金	2,410	2,410
資本剰余金	2,649	2,649
利益剰余金	6,754	6,848
自己株式	△ 10	△ 10
評価・換算差額等	64	74
その他有価証券評価差額金	64	74
少数株主持分	—	10
純資産合計	11,867	11,982
負債・純資産合計	25,392	24,890

中間連結損益計算書

科 目	当中間期	前中間期
	平成19年3月1日から平成19年8月31日まで	平成18年3月1日から平成18年8月31日まで
売上高	28,918	28,663
営業収入	2,802	3,086
売上原価	22,888	22,817
営業総利益	8,832	8,932
販売費及び一般管理費	8,347	8,007
営業利益	484	924
営業外収益	61	38
営業外費用	37	52
経常利益	508	911
特別利益	28	53
特別損失	365	423
税金等調整前中間純利益	171	541
法人税、住民税及び事業税	72	65
法人税等調整額	71	156
少数株主利益	0	0
中間純利益	27	319

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

中間連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当中間期	前中間期
	平成19年3月1日から平成19年8月31日まで	平成18年3月1日から平成18年8月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,607	2,361
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,555	△ 2,030
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 200	1,034
現金及び現金同等物の増減額	851	1,365
現金及び現金同等物の期首残高	2,991	3,031
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,842	4,397

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

中間連結株主資本等変動計算書

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株 主持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資本 本合計			
平成19年2月28日残高	2,410	2,649	6,848	△ 10	11,897	74	10	11,982
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△ 120		△ 120			△ 120
中間純利益			27		27			27
自己株式の取得				△ 0	△ 0			△ 0
連結範囲の変動				△ 0	△ 0			△ 0
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△ 10	△ 10	△ 20
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△ 93	△ 0	△ 93	△ 10	△ 10	△ 114
平成19年8月31日残高	2,410	2,649	6,754	△ 10	11,803	64	—	11,867

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

単体財務諸表

中間貸借対照表（単体）

（単位：百万円）

科目	当中間期	前事業年度
	平成19年8月31日現在	平成19年2月28日現在
【資産の部】		
流動資産		
現金及び預金	3,489	2,724
加盟店貸勘定	300	462
たな卸資産	1,305	1,197
その他	1,425	2,119
貸倒引当金	△ 0	△ 1
流動資産合計	6,519	6,502
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,016	5,887
器具備品	1,185	1,123
土地	3,869	3,893
その他	96	107
有形固定資産合計	11,168	11,012
無形固定資産	278	307
投資その他の資産		
投資有価証券	616	512
長期貸付金	2,225	2,132
敷金・保証金	4,313	4,445
繰延税金資産	888	819
その他	307	262
貸倒引当金	△ 1,347	△ 1,302
投資その他の資産合計	7,003	6,870
固定資産合計	18,450	18,190
資産合計	24,970	24,693

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

科目	当中間期	前事業年度
	平成19年8月31日現在	平成19年2月28日現在
【負債の部】		
流動負債		
支払手形	151	172
買掛金	3,826	3,093
加盟店買掛金	2,192	1,952
加盟店借勘定	193	81
短期借入金	112	112
未払金	698	850
未払法人税等	94	—
預り金	1,507	1,898
賞与引当金	106	108
その他	612	581
流動負債合計	9,494	8,851
固定負債		
長期借入金	272	328
退職給付引当金	356	354
預り保証金	2,260	2,415
預り敷金	683	712
その他	81	104
固定負債合計	3,654	3,914
負債合計	13,148	12,765
【純資産の部】		
株主資本	11,837	11,936
資本金	2,410	2,410
資本剰余金	2,649	2,649
利益剰余金	6,788	6,887
自己株式	△ 10	△ 10
評価・換算差額等	△ 15	△ 8
その他有価証券評価差額金	△ 15	△ 8
純資産合計	11,821	11,927
負債・純資産合計	24,970	24,693

中間損益計算書（単体）

（単位：百万円）

科目	当中間期	前中間期
	平成19年3月1日から平成19年8月31日まで	平成18年3月1日から平成18年8月31日まで
売上高	28,319	27,067
営業収入	2,763	3,164
売上原価	22,471	21,776
営業総利益	8,611	8,455
販売費及び一般管理費	8,096	7,472
営業利益	514	983
営業外収益	64	46
営業外費用	84	104

科目	当中間期	前中間期
	平成19年3月1日から平成19年8月31日まで	平成18年3月1日から平成18年8月31日まで
経常利益	495	925
特別利益	23	73
特別損失	356	442
税引前中間純利益	161	556
法人税、住民税及び事業税	69	60
法人税等調整額	71	162
中間純利益	20	334

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間株主資本等変動計算書（単体）

当中間期（平成19年3月1日から平成19年8月31日まで）（単位：百万円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		
			別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
平成19年2月28日残高	2,410	2,649	77	3,941	2,868	6,887
中間会計期間中の変動額						
剰余金の配当					△ 120	△ 120
中間純利益					20	20
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額（純額）						
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	△ 99	△ 99
平成19年8月31日残高	2,410	2,649	77	3,941	2,769	6,788

	株主資本		評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	自己株式	株主資本合計		
平成19年2月28日残高	△ 10	11,936	△ 8	11,927
中間会計期間中の変動額				
剰余金の配当		△ 120		△ 120
中間純利益		20		20
自己株式の取得	△ 0	△ 0		△ 0
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額（純額）			△ 6	△ 6
中間会計期間中の変動額合計	△ 0	△ 99	△ 6	△ 106
平成19年8月31日残高	△ 10	11,837	△ 15	11,821

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (平成19年8月31日現在)

発行可能株式総数 36,160,072株

発行済株式の総数 10,040,018株

株主数 6,446名

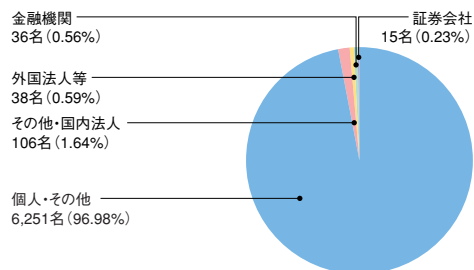
前期(第32期)末に比べ、751名増加しました。

大株主(上位10名)

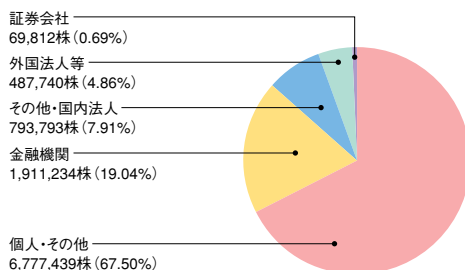
株主名	持株数	出資比率
目黒 俊治	2,873,344株	28.64%
ポプラ協栄会	856,609	8.53
ポプラ社員持株会	262,731	2.61
株式会社広島銀行	212,960	2.12
日本生命保険相互会社	207,460	2.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	200,100	1.99
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505019	181,400	1.80
東京海上日動火災保険株式会社	159,720	1.59
林 武成	150,537	1.50
三菱UFJ信託銀行株式会社	133,100	1.32

(注) 出資比率は自己株式(8,166株)を控除して計算しております。

所有者別株主分布状況



所有者別株式分布状況



会社の概況 (平成19年8月31日現在)

- 社名 株式会社ポプラ
- 本社 〒731-3395
広島市安佐北区安佐町大字久地665-1
- 資本金 24億1,013万7,725円
- 設立 昭和51年(1976年)4月20日
- チェーン店舗数 774店舗
- 従業員数 623名
- 主要な事業内容 当社は、フランチャイズチェーンシステムによるコンビニエンスストアの経営を主要業務として営んでおります。

役員

取締役社長 (代表取締役)	目黒 俊治	常勤監査役	相良 勝彦
取締役副社長 (代表取締役)	林 武成	社外監査役	高橋 仁
専務取締役 (代表取締役)	半田 之史	社外監査役	臼田 耕造
取締役	水口 厚		
取締役	宮崎 進		

子会社

会社名	資本金(千円)	出資比率(%)	主要な事業内容
大黒屋食品株式会社	10,000	100	珍味卸売業
ポプラ保険サービス有限会社	3,000	(注) 100 (73.3)	保険代理業
株式会社ハイ・リテイル・システム	10,000	100	コンビニエンスストア事業
株式会社キリン堂薬局	12,000	100	ドラッグストア事業

(注) 出資比率には、間接所有分()を含めて記載しております。

なお、その内訳は、当社26.6%、大黒屋食品株式会社36.7%、株式会社キリン堂薬局36.7%となっております。

当社の特徴について

Q ポプラの加盟店が支払うロイヤリティーは他のコンビニエンスストアとどう違うのですか？

A ポプラでは売上ロイヤリティー制度を採用しています。一般的にコンビニエンスストアでは、売上高から商品原価を引いた粗利益の35～45%をロイヤリティーとして本部が徴収しますが、ポプラは売上高の3%のみを徴収しています。粗利益の35～45%は売上高に換算すると10～13%に相当するため、ポプラのロイヤリティーはかなり低いといえます。ただし、利益が上がるほどオーナー様の収入に直結する代わりに、ポプラでは、一般的なコンビニエンスストアのように不採算店に対して利益の補填をする最低保証制度はありません。

Q ポプラオリジナル「HOT弁当」とはどんなものですか？

A 「HOT弁当」のパッケージには「お店で温かいごはんをお詰めします」のシールが貼られ、出荷、陳列時の商品にご飯は入っていません。どんなに研究を重ね、電子レンジで温めなおしても、一定の時間が経過するとご飯の美味しさは損なわれます。ポプラでは、お客様にいつも美味しいご飯を提供したいという考えから、各店でご飯を炊き、お客様がお弁当をお買い上げの際にご飯をお詰めするというスタイルをとっています。



Q そんなに低いロイヤリティーで経営が成り立つのですか？

A ポプラは米飯や惣菜を本部で製造、自社内に商品センターを保有し、物流をコントロールして、加盟店への卸売上によって利益を得ております。そのため自社工場・商品センターを、広島県、岡山県、福岡県、神奈川県で稼働させ、製造・卸・物流・小売までを一貫させた製販一貫体制を確立しております。

Q 「違約金0システム」を採用していると聞きましたが。

A 加盟者サイドの都合によるフランチャイズ契約の途中解約の場合、違約金が発生するのが一般的ですが、ポプラではオーナー様の不利益にならないよう、「違約金0システム」を採用しております。

Q ポプラグループのお店について教えてください。

A ポプラグループのお店は「ポプラ」の他に、高級感を打ち出した「生活彩家」、ポプラの関西地区への進出の足がかりとなった「くらしハウス」、関東地区で拠点展開する「スリーエイト」があります。



これからのポプラ・中期戦略

中国・四国・九州地区

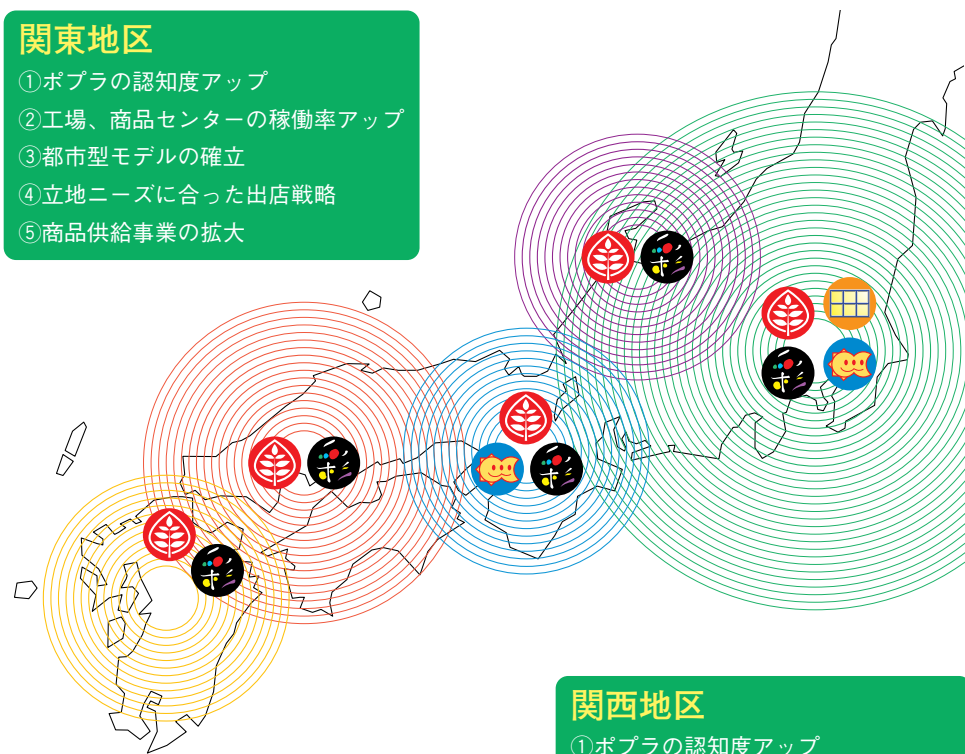
- ①質の向上
- ②個店の競争力アップ
- ③工場、商品センターの稼働率アップ
- ④立地ニーズに合った出店戦略

関東地区

- ①ポプラの認知度アップ
- ②工場、商品センターの稼働率アップ
- ③都市型モデルの確立
- ④立地ニーズに合った出店戦略
- ⑤商品供給事業の拡大

北陸地区

- ①ポプラの認知度アップ
- ②立地ニーズに合った出店戦略



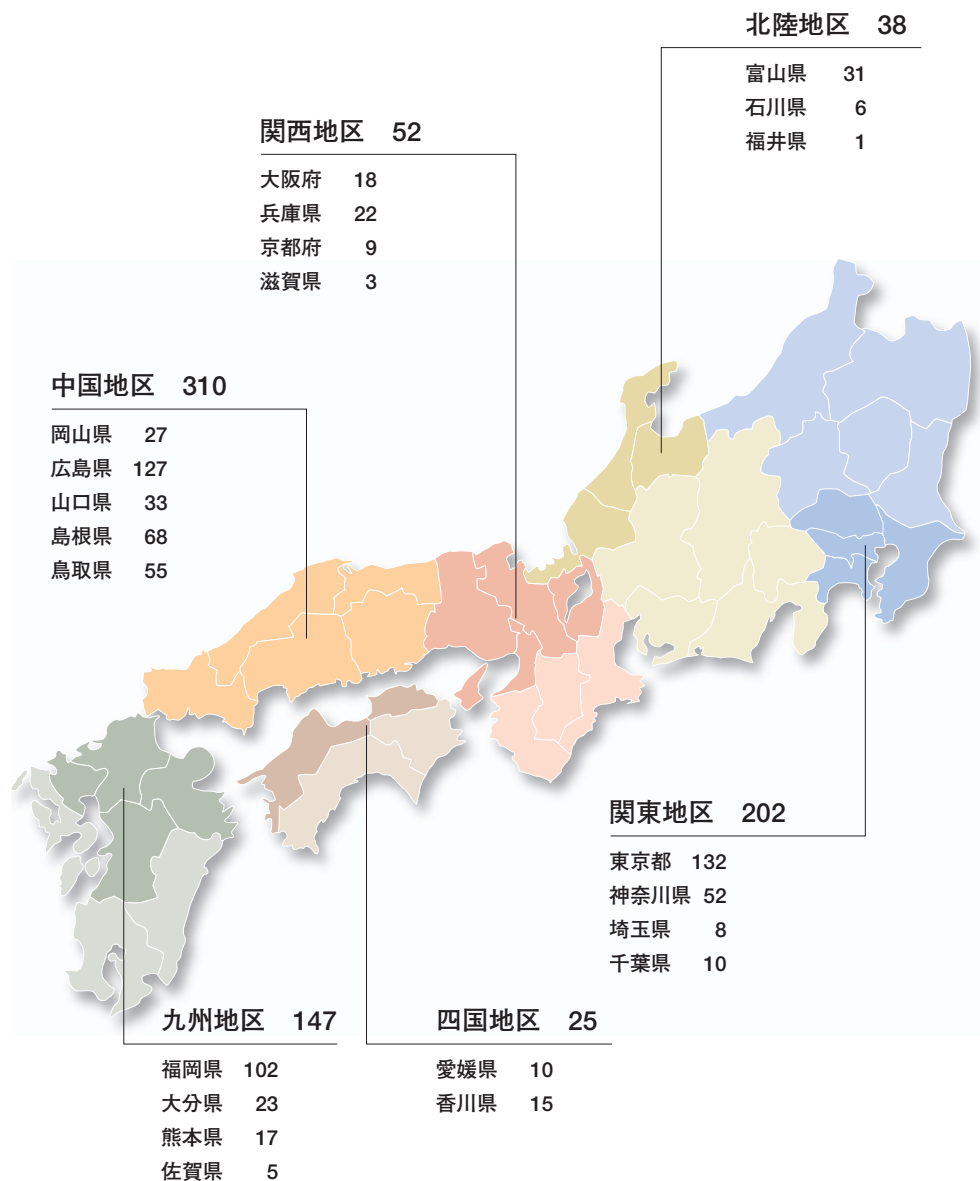
関西地区

- ①ポプラの認知度アップ
- ②ドミナント化
- ③立地ニーズに合った出店戦略

40周年に向けて

10年後まで勝ち残るために
新たな地区への進出を視野に入れながら、
ナショナルチェーンへの飛躍を目指します。

平成19年 8月31日現在店舗数 774店舗（直営247）

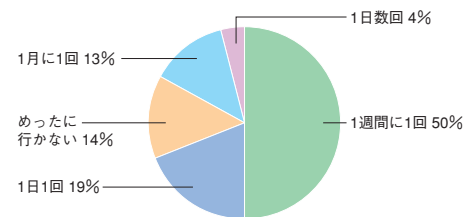


●第32期報告書と一緒に送付させていただいた株主様アンケートは、今回も多数の株主様からご回答をいただきました。

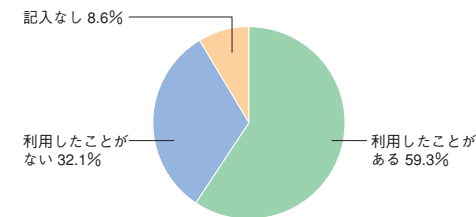
その中のアンケート結果の一部ではありますが、今回も掲載させていただきます。

株主様とのコミュニケーションを深めるためや株主様の直の声を聞ける機会として、今後も続けてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

コンビニエンスストアを利用される頻度はどのくらいですか？



インターネットトレードを利用したことがありますか？



店舗出店について

- ・関西地区に店舗を増やしてください。弁当の種類が豊富なのでうれしいです。（兵庫県・30代・女性）
- ・関東地区への更なる出店を期待しています。（東京都・30代・女性）
- ・まだ出店していない地域への出店をお願いします。（富山県・40代・男性）

平成19年5月に福井県への出店を開始しました。他地区への進出も視野に入れながら、堅実に店舗網を拡げてまいります。

その他

- ・お弁当の充実を期待しています。HOT弁当は良いと思います。（広島県・30代・男性）
- ・ポプラのお弁当はご飯がおいしくて、気に入っています。今後も他のコンビニとは一味違ったお弁当を販売してください。（兵庫県・50代・男性）
- ・お店でお弁当に温かいご飯を詰めてもらえることに、最初はビックリしました。（神奈川県・50代・女性）
- ・生活彩家がポプラグループとは知りませんでした。（東京都・40代・男性）

今後も、当社の特徴であるHOT弁当をはじめ、特色を生かした商品を開発してまいります。また、地域に密着した店作りができるよう、サービスの充実を図ってまいります。

たくさんの貴重なご意見をいただきました。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。